

子供たちが夢と希望を持てる社会を実現。



元海上自衛官(1等海佐) (艦載哨戒機部隊ヘリコプターパイロット)

宮野 けんいち

連絡先 宮野健一後援会

〒896-1512 薩摩川内市下甕町瀬々野浦450
 TEL 080-3900-3951
 MAIL otoiawase@miyano-kenichi.jp



故郷を守る。

皆さま、こんにちは。宮野健一(みやの けんいち)と申します。

私は昭和39年5月薩摩川内市下甕町(旧薩摩郡下甕村瀬々野浦)で生まれ、中学校卒業まで甕島で育ちました。中学卒業後は川内高校に入学し3年間寮生活を送り、卒業後は東京に出て朝日新聞奨学生として朝夕の新聞配達・集金・セールスをして学費と生活費を稼ぎながら亜細亜大学で法律(国際法)を学びました。

大学卒業後は帝国海軍の歴史が色濃く残る広島県江田島の海上自衛隊幹部候補生学校に入校し、自衛官としての人生をスタートしました。この度、32年に及ぶ国家防衛の任務と5年間の会社勤務を終え故郷薩摩川内市に戻ってまいりました。今後は私を育ててくれた故郷に感謝と恩返しをすべく自衛隊及び民間会社の勤務を通じて習得してきた様々な知識、経験、教訓等を故郷の皆様への安心安全の確保と発展のために活かしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年吉日

プロフィール

昭和39年5月 薩摩川内市下甕町 生まれ
 昭和46年4月 下甕村立西山小学校入学
 昭和55年3月 下甕村立海星中学校卒業
 昭和58年3月 鹿児島県立川内高校卒業
 昭和63年3月 亜細亜大学法学部卒業
 昭和63年3月 海上自衛隊幹部候補生学校入校
 平成 元年3月 海上自衛隊幹部任官(3等海尉)
 令和 元年5月 海上自衛隊定年退官(1等海佐)
 令和 元年5月 羽田エアポートセキュリティ株式会社 入社
 令和 6年4月 羽田エアポートセキュリティ株式会社 退社

海上自衛隊での主要配置

- ◆ 対潜哨戒機(ヘリコプター)部隊
- ◆ 研究開発部隊
- ◆ 航空総隊司令部幕僚(航空自衛隊出向)
- ◆ 航空集団司令部研究開発主任幕僚
- ◆ 航空プログラム開発隊副長
- ◆ 第25航空隊副長
- ◆ 大湊システム通信隊司令
- ◆ 幹部学校指揮幕僚課程(CS)入校



故郷の海を臨む(旧西山小学校から)。



川内高校3年時の夏の甲子園県予選(於:鴨池球場)



艦載航空部隊のパイロットとして国家防衛の最前線で任務遂行。

ふるさと 故郷を守る。

元自衛官としての矜持をもって常に誠実な態度で故郷の皆様の安心安全の確保と発展のために活動してまいります。そして、子どもたちが夢と希望を持てる社会を実現します。

1. 市民の安心・安全の確保
2. 少子高齢化・人口減社会への挑戦
3. 次世代技術の活用による
都会より豊かな薩摩川内創生
4. 農林水産業の復興と新規産業誘致
による魅力ある雇用環境の構築
5. 伝統・文化の保存継承と自然保護

政策の詳細は「miyano-kenichi.jp」で検索。又は右記QRコードをお読み取りください。



自衛隊OBの佐藤正久参議院議員にご指導と激励のお言葉をいただきました。

家族やプライベートの過ごし方は？

家族構成は、妻と長女・長男・次男の5人家族です。長女・長男は結婚し孫が1人います。長男が私と同じ海上自衛官として艦艇部隊で勤務しています。妻は小学校教諭(初任校:隈之城小学校)、長女、次男は会社員です。自衛官時代は神奈川県の海老名市に自宅を構えていましたが、休日には職場の同期や子供のスポーツつながりの気の合う親父達、あるいはご近所さんなどがよく集まり我が家のデッキでバーベキューを楽しみました。子供たちも大学や会社の仲間を連れてきて同様に楽しんでいます。このように多くの方が訪れる賑やかでオープンな家庭です。

趣味は球技・武道などスポーツ全般、読書、真向法など。



週末には同期家族等とのBBQを楽しむ。



My Family!

Ready for take-off.
「離陸準備は完了」



政治活動を始めた理由は？

自衛官時代は毎年家族とともに故郷に帰省していましたが、帰るたびに過疎化が急激に進み日常生活もどんどん不便になり限界集落となりつつありました。薩摩川内市も同様に様々な課題を抱えています。このままではいずれ集落がなくなるのではとの危惧から**減び行き、多くの課題を抱える故郷をなんとか守りたい**との一心で、今年の5月末、下甕町に帰ってきました。また、自衛隊では日本各地の部隊、司令部等で様々な配置・任務を経験し知識、能力を習得するとともに貴重な教訓を得てきました。自衛隊で習得したこれらの能力及び経験・教訓等を有効に活かして故郷の復興、薩摩川内市の課題解決に役立てたいと考えました。

自衛隊での経験はどのように役立つのか？

32年あまりの自衛隊生活では回転翼哨戒機部隊を始め研究開発、教育あるいは司令部幕僚として様々な配置・任務を経験してきました。この間、私はヘリコプターパイロットとしての知識技能の維持、向上は必須の要件ではありましたが、さらに**幹部自衛官として最も必要とされる資質・能力は、海上自衛隊で「作戦要務」と呼ばれている軍事問題を始めとする各種問題の論理的かつ体系的な解決手法(思考法)でした**。自衛官はこの思考法を現役期間を通じて学び、そして実任務、災害派遣、訓練、研究開発、通常業務等で実践します。東日本大震災の時、10万の大部隊が済々と任務を遂行し、国民の皆様から日本で最も信頼される組織として評価されるに至ったのは、まさにこの思考法に基づく部隊(組織)運用が陸海空全ての部隊に浸透し実践されたことが一つの大きな要因であったと考えています。

自衛官として30年以上学び実践してきたこの作戦要務の考え方は、ビジネス分野も含め全ての分野で必要とされるものです。実際、退官後の民間会社勤務においても真価を発揮しました。**地域社会の問題解決も含め複雑な問題を解決しなければならない政治の世界において、この思考法は本来最も必要とされる資質・能力であると考えています**。